

職リハ学会通信

No. 176 2023年 12月発行

目次

第51回島根大会のご案内	2P
運営理事会報告	3P
委員会報告	5P
会員投稿・報告	6P
事務局からのお知らせ	7P

第 51 回島根大会のご案内

職業リハビリテーションにおける「本人中心」を問い直す

第 51 回大会は、島根県松江市で開催されます。松江テルサ（松江市朝日町 478-18）を会場に、対面形式による開催を目指し準備を進めています。日程は、2024 年 8 月 23 日（金）、8 月 24 日（土）です。大会長は、社会医療法人清和会理事長で、精神科医の林輝男先生です。多くの皆様にとって遠方の地となるかと思いますが、JR 松江駅から徒歩 1 分、最もアクセスの良い会場を選定しました。ぜひ、多くの方々に参加していただきたいと考えております。

■ 大会テーマ

大会テーマは、職業リハビリテーションにおける「本人中心」を問い直す、としました。

「本人中心」に着目したのは 2 つの理由があります。1 つ目は、大会長の林先生が、精神科病院で精力的に IPS 個別就労支援を実践されているということです。「本人の希望や興味関心、ストレングス」に徹底して寄り添い、「本人を取り組みの中心においた実践」を展開されています。2 つ目は、「就労選択支援の創設」です。就労選択支援の肝として、「本人の希望や就労能力、適正などに合った選択を支援する」「本人と協同する」等と謳われているように、いかに「本人を取り組みの中心におくか」が強調されています。このようなことから「本人中心」という言葉を、テーマの一部に選びました。

そして、「問い直す」という言葉には、「改めて、幅広く考える」という意味が込められています。そもそも、「本人中心」とは何を指すのか。「本人主体」「本人との協同」「自己理解の促進」「自己決定の尊重」等とどう違うのか、同じなのか、それらが含まれるのか。実行委員会としては、「本人中心」を厳密に定義してい

るわけではありません。上記を包含するものとして、「本人を取り組みの中心におく」ことについて、改めて、幅広く考えてみる機会にしたいと考えております。

「本人を取り組みの中心におく」というのは、当たり前のことのように思います。しかし、はたして「十分にやれている」と言い切れるでしょうか。専門家主導になっていないか、事業所都合に左右されていないか、制度の制約に阻まれていないか、等と考えてみますと、さまざまな課題があるように感じます。あるいは、「企業の立場」から考えてみた時に、「本人中心」とはどのような意味をなすのか、どのようにとらえると良いのか、といったことも論点ではないかと考えます。職業リハビリテーションにおける「本人中心」について、ぜひ、皆様とともに、対面の場で議論を行いたいと考えております。

■ 実行委員を中心にプログラムを検討中

51 回大会は、大会長の林先生、実行委員長の青山貴彦（社会福祉法人桑友）を中心に、実行委員が定期的に会議を重ね、プログラムの企画ならびに準備を進めております。大会企画だけではなく、政策委員会、国際委員会、研修委員会等の学会企画のプログラムも予定しております。2 月を目途に WEB ページを立ち上げ、大会の概要ならびに参加・発表の申し込み方法等をお知らせする予定です。

また、2 月には下記の通りプレ大会を開催します。「職業リハビリテーション」「本人中心」に関して学び、参加者同士で交流したいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

（第 51 回島根大会実行委員長 青山貴彦）

<プレ大会>

日時：2024 年 2 月 24 日（土）10:30～16:30 会場：松江テルサ 4 階大会議室

内容：講座「本人中心の立場から展開する自己理解の支援」前原 和明 氏

講演「職業リハビリテーションの基本理念」朝日 雅也 氏

講演「再考『本人中心』～IPS 個別就労支援の実践をもとに～」林 輝男 氏

グループトーク「本人中心に関わる実践、悩みや課題、疑問に関する話し合い」

定員：100 名（先着順）参加費：無料 申込：<https://ws.formzu.net/dist/S841650537/>

申込フォーム

